

Empowered by Innovation

NEC

Home Network


ホームネットワーク活用Book

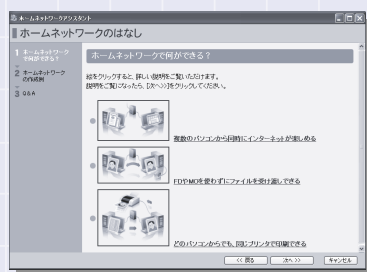
ホームネットワークで何ができる？

複数のパソコンから同時にインターネットが楽しめる

FDやMOを使わずにファイルを受け渡しできる

どのパソコンからでも、同じプリンタで印刷できる

「複数のパソコンから同時にインターネットが楽しめる」～「どのパソコンからでも、同じプリンタで印刷できる」については、「ホームネットワークアシスタント」－「ホームネットワークのはなし」の「1 ホームネットワークで何ができる？」で紹介していますので、そちらをご覧ください。

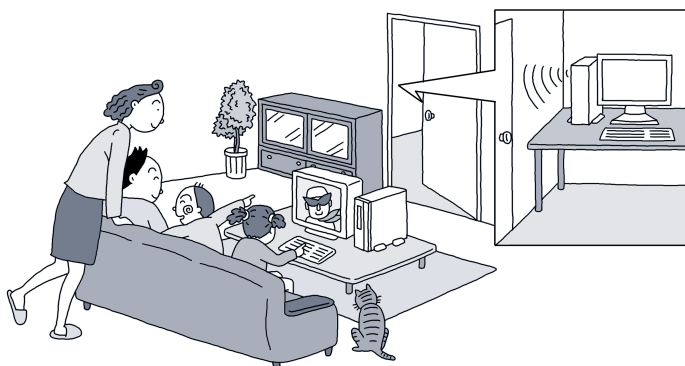


この他にも、ホームネットワークを構築することで、次のようなことができます。

» p.42

ホームネットワークでテレビを楽しむ

クライアント側のパソコン（ホームネットワークに接続した他のパソコン）に「SmartVision/PLAYER」をインストールすることで、サーバー側のパソコン（このパソコン）で受信した番組や録画した番組を視聴したり、このパソコンに録画予約ができるようになります。クライアント側のパソコンに無線LAN機能がれば、電波の届く範囲ならどこでも好きな場所で、テレビを楽しむことができます。*



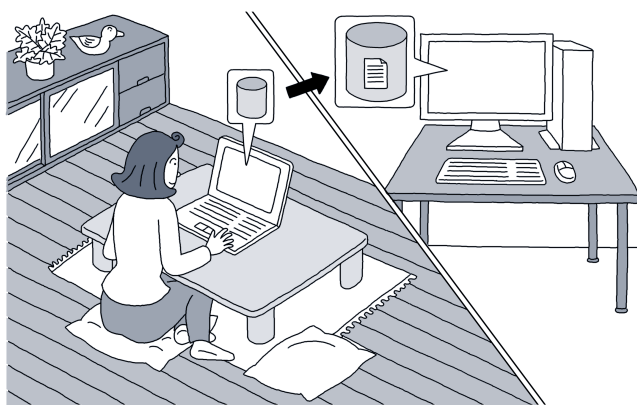
※：電波環境により、ご使用になれない場合があります。

ご家庭で使っているパソコンが2台以上あるなら、ホームネットを構築してみましょう。ホームネットワークを構築することで、パソコンの使い方はさらに広がります。

» p.41

他のパソコンのデータをこのパソコンにバックアップする

ホームネットワークに接続している他のパソコンに「バックアップ-NX」がインストールされていれば、クライアント側のパソコンのデータをサーバー側のパソコンにバックアップできます。自分で作成した住所録や登録したメールアドレス、やり取りしたメールの内容、インターネットの設定などをサーバー側のパソコンにバックアップしておけば、万一、クライアント側のパソコンが故障したり、間違っただデータを削除してしまった後でも、「バックアップ-NX」を使って、サーバー側のパソコンにバックアップしたデータをホームネットワーク経由で簡単に元に戻すことができます。



このマニュアルの表記について

◆ 本書の対象機種について

本書では、次のOSがインストールされているパソコンを対象にした、ホームネットワークの構築のしかたを説明しています。

- ・Windows XP Professional/Home Edition
- ・Windows 2000
- ・Windows Me
- ・Windows 98 Second Edition

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトウェアの破壊、パソコンの破損の可能性があります。

POINT

そこまでに説明した手順の中でとくに大切なポイントがまとめられています。後から応用するときのヒントとして利用してください。



ホームネットワークに関連する用語の意味を解説しています。



マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています




「ホームネットワークアシスタント」

「ソフトナビゲーター」の「目的で探す」-「メール・インターネット」-「ネットワーク・モバイル」-「ホームネットワークを構築する」-「ホームネットワークアシスタント」アイコン-「起動する」をクリックして、「ホームネットワークアシスタント」を起動することを示します。



「サポートナビゲーター」

サポートソフト「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートナビゲーター」は、デスクトップの (困ったときのサポートナビゲーター) をダブルクリックして起動します。

◆本文中の画面やイラスト、ホームページについて

本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows XP、 Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 1
Windows XP、 Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 1
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
マカフィー・ウイルス スキャン	マカフィー®・ウイルススキャン
マカフィー・パーソナル ファイアウォールプラス	マカフィー®・パーソナルファイアウォールプラス

◆ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® XP Professionalまたは、Microsoft® Windows® XP Home Edition、および本機に添付のCD-ROM、DVD-ROMは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) あなたがテレビ放送や録画物などから引用したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

McAfee、VirusScan、マカフィーは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の登録商標です。BIGLOBE、SmartVision、MediaGarageは、日本電気株式会社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd. 2004

日本電気株式会社、NECパーソナルプロダクツ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

目次

ホームネットワークで何ができる？	(巻頭)
このマニュアルの表記について	ii
Part 1 ホームネットワークを作る前に	1
ホームネットワークの準備をする	2
ホームネットワークに必要な機器	2
ホームネットワークを危険から守るためには	6
Part 2 ホームネットワークを作る	7
タイプ別作り方ガイド	8
「ホームネットワークアシスタント」を使ってホームネットワークを作る	9
「ホームネットワークアシスタント」ってなに？	9
パソコンの設定をする	10
ルータを使ってホームネットワークを作る	13
パソコンの設定をする	14
ルータを設定する	18
ホームネットワークの設定を確認する	21
ファイルを共有する	21
プリンタを共有する	24
IPアドレスを手動で設定する	26
ルータを使わずにホームネットワークを作る	29
このパソコンの設定をする	30
ホームネットワークの設定を確認する	32
インターネット接続を共有できるようにする	33
ホームネットワークに無線LANを追加する	35
無線LAN機器を設定する	36
無線LAN機器のセキュリティ	37
Part 3 ホームネットワークを使って更に便利に!	39
ホームネットワークの統合管理ソフト「ネットコーディネーター」	40
こんなことができます	40
統合AVソフト「MediaGarage」	42
こんなことができます	42
用語集	44
索引	47

Home Network

Part

1

ホームネットワークを作る前に

ホームネットワークの準備をする

ホームネットワークを作る前に、あらかじめどんなホームネットワークを構築したいのか、ホームネットワークに必要な機器は何かを整理しておきましょう。

具体的には、次のような項目をチェックしながら、ホームネットワークの構成や必要な機器を決めます。

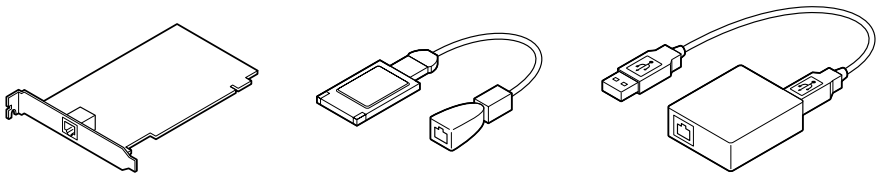
- パソコンの台数と種類（デスクトップPC、ノートPC、など）
- インターネット回線の種類（アナログ回線、ISDN、CATV、ADSL、FTTH、など）
- ネットワーク機器との接続のしかた（LANケーブル、無線LAN、LANケーブル+無線LAN）
- インターネットの接続口の場所
など

この他にも、ホームネットワークを構築する環境について調べておくことも重要です。例えば、無線LANを構築したい場合は、相手の無線LAN機器との間に通信の障害となるもの（壁や電子レンジなど）があると、通信速度が遅くなったり、通信が途切れたりすることがあるので、無線LAN機器を置く場所には、これらの障害となるものを遠ざけたり、置かないようにしたりする必要があります。

ホームネットワークに必要な機器

ホームネットワークに必要な機器の種類や台数は、構築するホームネットワークの種類、ホームネットワークに接続するパソコンの台数や種類、インターネット回線の種類などによって異なります。ここで、自分のホームネットワークに必要な機器を確認してください。

● LAN アダプタ



パソコンにLANコネクタがないときに使います。最近のパソコンにはLANコネクタがあることが多く、その場合は別に購入する必要はありません。

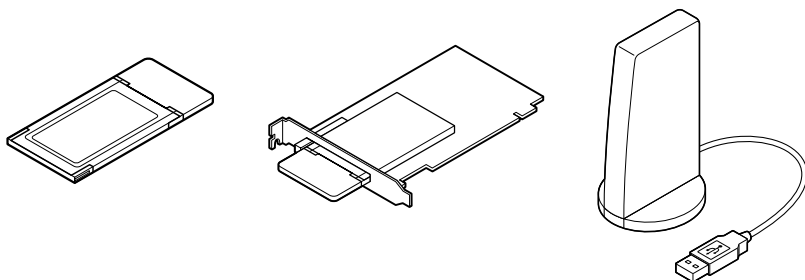
LANアダプタには、取り付け方の違いにより、いくつか種類があります。デスクトップパソコンには「PCIスロットタイプ」、ノートパソコンには「PCカードタイプ」のものを取り付けるのが一般的です。

パソコンにPCIスロットやPCカードスロットがなかったり、空きがない場合は、USBコネクタに取り付ける「USBタイプ」のLANアダプタを取り付けます。



USBタイプのLANアダプタを使うときに、お使いのパソコンがWindows 98の場合は、うまく動作しないことがありますので、注意してください。詳しくは、機器のマニュアルをご覧ください。

●無線 LAN アダプタ



LAN ケーブルを使わずに、無線でデータをやり取りしたいときに使います。LAN アダプタ同様、いくつかのタイプがあり、お使いのパソコンに合ったタイプを選ぶ必要があります。

無線 LAN には、無線 LAN 機能がある（または無線 LAN アダプタを取り付けた）パソコン同士でデータをやり取りする「アドホックモード」と、アクセスポイント*と呼ばれる機器を介して無線 LAN 機能がある（または無線 LAN アダプタを取り付けた）パソコンとデータをやり取りする「インフラストラクチャーモード」の 2 種類の通信モードがあります。

ワイヤレス LAN モデルのパソコンには、無線 LAN 機能が内蔵されています。

*：ルータを使ってホームネットワークを構築する場合は、無線 LAN 機能がある（またはアップグレードすることで無線 LAN に対応できる）ルータを使うことをおすすめします。また、ルータタイプの ADSL モデム（またはケーブルモデム）を使う場合は、ルータタイプでない無線 LAN アクセスポイントが必要になります。

POINT

無線 LAN 規格について

- ・現在の無線 LAN の規格には「IEEE802.11a」、「IEEE802.11g」、「IEEE802.11b」があります。
ワイヤレス LAN モデルに搭載されたトリプルワイヤレス LAN 機器は、これらすべての規格に対応しているので、接続する無線 LAN 機器がいずれかの規格に対応していれば接続は可能です。
- ・無線 LAN 機器同士の接続互換性については、業界団体 Wi-Fi Alliance による「Wi-Fi®」認定を取得している同じ規格の製品を購入されることをおすすめいたします。

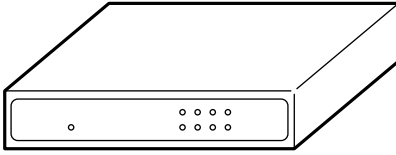


「IEEE802.11a」は、「IEEE802.11g」や「IEEE802.11b」とは互換性がありません。



このパソコンの無線 LAN アダプタについて → 「サポートナビゲーター」 - 「パソコン各部の説明」 - 「パソコンの機能」 - 「ワイヤレス LAN」

●ルータ



ホームネットワークに接続した複数のパソコンから、同時にインターネットを利用するときに使います。ホームネットワークをインターネットに接続しない場合や、モデムやTA（ターミナルアダプタ）を使ってインターネットに接続している場合は、必要ありません。

ルータは、インターネット回線に対応しているものを購入してください。現在市販されているルータは、ADSL やCATV、ISDN、FTTHに対応しているタイプがほとんどで、複数のLANコネクタがあるものが一般的です*1。無線LAN機能があるものもあります*2。

ルータの種類によっては、プロバイダや回線事業者が認定または推奨するもの以外は利用できないことがあるので、注意してください。プロバイダや回線事業者のホームページで、認定または推奨するルータを紹介していることがあるので、参考にしてください。

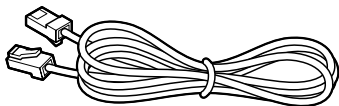
また、プロバイダや回線事業者によっては、ルータの利用を約款で禁止しているところもあります。詳しくは、プロバイダや回線事業者にお問い合わせください。

- * 1：ルータタイプのADSLモデム（またはケーブルモデム）など、LANコネクタが1つしかないルータを使ってホームネットワークを構築するには、ハブが必要になります。
- * 2：ルータから離れた場所にパソコンを設置したいときなどに便利です。また、アップグレードすることで無線LANルータとして使用できるものもあります。詳しくは、ルータのメーカーのホームページをご覧ください。なお、ルータタイプのADSLモデム（またはケーブルモデム）を使う場合は、ルータタイプでない無線LANアクセスポイントが必要になります。

POINT

将来、ホームネットワークに接続するパソコンを増やしたり、インターネット回線をより高速なものに変更するときに、機器を追加購入したり、買い換えたりしなくても済むように、ルータを購入するときには、LANコネクタの数に余裕があるものや、複数のインターネット回線に対応しているもの、無線LANに対応しているものを選ぶことをおすすめします。

● LAN ケーブル



パソコンとネットワーク機器（ハブやルータ、ADSL モデムなど）の LAN コネクタを接続するときに使います。通常、10BASE-T と 100BASE-TX の両方に対応している、「カテゴリ 5」の「ストレートケーブル*」を使います。また、1000BASE-T 対応のネットワーク機器の LAN コネクタを接続する場合には、「カテゴリ 5e」以上の LAN ケーブルを利用してください。LAN ケーブルは、パソコンを机の上に置いたり、本棚などの障害物があれば、実際の距離よりも長いものが必要になるので、長さに余裕があるものを選びましょう。また、どの機器にどの LAN ケーブルを接続したかがすぐに分かるように、色の違う LAN ケーブルを購入することをおすすめします。

*：ハブ同士を接続したり、モデム（LAN ケーブルで接続するタイプのものや、ハブ機能を持たないルータタイプのもの）とハブを接続するときなどには、「クロスケーブル」を使います。詳しくは、機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

● ハブ



LAN コネクタがいくつも並んだ機器で、ルータの LAN コネクタの数が足りなくなったときなどに使います。特別な設定は必要なく、LAN ケーブルと電源ケーブルを接続するだけで使えるようになります。LAN コネクタの数に余裕があるものを購入しておけば、後からホームネットワークに接続するパソコンを増やすときに便利です。

なお、ルータを使うときは、ルータにハブが内蔵されていることが多いため、この場合は別に購入する必要はありません*。

ホームネットワークに接続するパソコンの LAN アダプタが 1 つでも 100BASE-TX に対応している場合は、10BASE-T と 100BASE-TX の両方を自動認識するハブ（スイッチングハブなど）を購入してください。


また、1000BASE-T 対応のネットワーク機器間で通信する場合には、10BASE-T/100BASE-T/1000BASE-T を自動認識するスイッチングハブを購入してください。

*：使用するモデム（ADSL モデムなど）がルータタイプの場合は、モデムにハブを接続する必要があります。このとき、モデムとハブは「クロスケーブル」で接続します。

ホームネットワークを危険から守るためには

ホームネットワークに接続している他のパソコンとデータを共有したり、このパソコンのインターネット接続の共有機能を利用してホームネットワークに接続しているすべてのパソコンでインターネットを利用している場合などには、外部からこのパソコンに侵入されたり、ウイルスに感染したりする危険があります。

それらの危険からパソコンを守るために、このパソコンには、外部からこのパソコンへの侵入を防ぐソフト「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」と、ウイルスの検出と駆除ができるソフト「マカフィー・ウイルススキャン」がインストールされています。

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「つながった後のインターネット」をご覧ください。設定をしておくことをおすすめします。

Home Network

Part

2

ホームネットワークを作る

タイプ別作り方ガイド

ホームネットワークの作り方は利用したい環境によって異なります。ここで、作りたいホームネットワークのタイプを確認してください。

インターネットを使用する



NO

ADSL回線を使ってインターネットに接続する

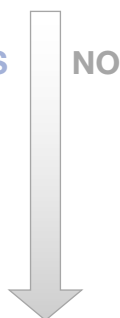
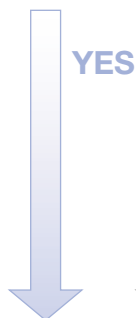


ADSL モデム/ルータが「ホームネットワークアシスタント」に対応している

(🖱️)「ホームネットワークアシスタント」-「設定スタート!」-「1 はじめに」-「ホームネットワークに必要なものの確認」で、「ホームネットワークアシスタント」に対応しているかどうか確認できます)

ホームネットワークにルータ*を使う

* : ルータタイプのADSLモデム (またはケーブルモデム) を含む



「ホームネットワークアシスタント」を使ってホームネットワークを作る」
» p.9

「ルータを使ってホームネットワークを作る」
» p.13

「ルータを使わずにホームネットワークを作る」
» p.29

ホームネットワークに無線LANを追加したい場合は…

「ホームネットワークに無線LANを追加する」
» p.35

「ホームネットワークアシスタント」を使ってホームネットワークを作る

「ホームネットワークアシスタント」ってなに？

ADSL回線でインターネットに接続していて、お使いのADSLモデム/ルータが「ホームネットワークアシスタント」に対応していれば、「ホームネットワークアシスタント」を使ってホームネットワークを作ることができます。

ここでは、「ホームネットワークアシスタント」の使い方について説明します。

1

「ソフトナビゲーター」の「目的で探す」-「メール・インターネット」-「ネットワーク・モバイル」-「ホームネットワークを構築する」-「ホームネットワークアシスタント」アイコン-「起動する」をクリックする

「ホームネットワークアシスタント」が起動し、「本ツールの使用許諾」画面が表示されます。

2

同意する場合は、「同意する」をクリックする

「メインメニュー」画面が表示されます。



ホームネットワークを作る前に、ホームネットワークに必要な機器の接続や設定（ドライバのインストール）などを済ませておいてください。また、あらかじめCD-Rメディア1枚を用意しておいてください。このCD-Rメディアは、2台目以降のパソコンを設定するために使用します。

準備が終わったら、次へ進んでください。

POINT

新しくネットワークの設定をしたり、ネットワークの設定を変更してIPアドレスが変更になったときなどは、「[マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス] の設定をする」(p.18) をご覧になり、「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定をしておくことをおすすめします。

パソコンの設定をする



このパソコン (1 台目) を設定する

1 | メインメニューの「設定スタート!」をクリックする

「ホームネットワークをつくる」画面が表示されます。

2 | 設定する項目を確認して、「次へ」をクリックする

POINT

一度設定した内容を変更する場合など、ここで設定する項目だけを選択することもできます。

しばらくすると、「LAN アダプタの選択」と表示されます。

3 | 「LAN アダプター一覧」欄から使用する LAN アダプタを選んで、「次へ」をクリックする

「ホームネットワークをつくる前の準備」と表示されます。

4 | 内容を確認して、「本ツールの CD 作成手順」をクリックする

「本ツールの CD 作成手順」画面が表示されます。あらかじめ用意した CD-R メディアをこのパソコンの CD/DVD ドライブにセットした後、画面の説明を見ながら「ホームネットワークアシスタント」CD を作成してください。作成後、画面右上の「閉じる」をクリックして画面を閉じます。

5 | 「次へ」をクリックする

「本ツールで使用する図の説明」と表示されます。

6 | 「次へ」をクリックする

「ホームネットワークに必要なものの確認」と表示されます。

7 お使いのルータのメーカー名、ルータ機器名を選んで、「次へ」をクリックする

この後に表示される画面は、お使いのルータによって異なります。画面の説明をよく読んで機器の接続を行ってください。

手順2で「無線LANの設定」を選択した場合は、途中で無線ルータのSSIDとWEPキーを入力する必要があります。

SSIDとWEPキーは無線ルータごとに異なります。お使いの無線ルータのマニュアルをご覧くださいになり、あらかじめ無線ルータのSSIDとWEPキーを確認してください。

8 ご利用のプロバイダサービスとネットワーク機器を選んだ後、「次へ」をクリックする

この後に表示される画面は、ここで選んだサービスや機器の種類によって異なります。画面の説明をよく読んで設定を行ってください。



ルータをお使いの場合は、ルータの設定を行った後に、このパソコンの「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定をすることをおすすめします（「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」をお使いの方のみ）。「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定をする（p.18）をご覧くださいになり、設定を行ってください。設定が完了した後に「次へ」をクリックすると、「電子メールの設定」と表示されます。

9 説明をよく読んで電子メール設定の有無やメールソフトを選んだ後、「次へ」をクリックする

「パソコンの名前を変更する」と表示されます。

10 「パソコンの名前」欄にパソコンの名前を半角英数字で入力し、「次へ」をクリックする

Windows XP Professional/Home Editionの場合は、「共有フォルダの設定」と表示されます。画面の説明をよく読んで、共有フォルダの設定を完了させてください。

11 「次へ」をクリックする

「設定準備完了」と表示されます。

12 内容を確認した後、「次へ」をクリックする

「プリンタ設定前の準備」と表示されます。

13 内容を確認した後、「プリンタの設定を続ける」が●になっていることを確認して、「次へ」をクリックする

「プリンタを設定する手順」と表示されます。

14 「プリンタの設定を続ける」が●になっていることを確認して、「次へ」をクリックする

「使用するプリンタの選択」と表示されます。

15 「このパソコンで使用するプリンタを選ぶ」を●にして、「プリンター一覧」欄から使用するプリンタを選んで、「次へ」をクリックする

「ホームネットワークの診断」と表示されます。ここでホームネットワークが正しく設定されているか確認してください。

16 「次へ」をクリックする

「完了」と表示されます。

17 「次へ」をクリックする

これでこのパソコンの設定は完了です。画面の説明をよく読んだ後、CD/DVDドライブから「ホームネットワークアシスタント」CDを取り出してください。

2 台目以降のパソコンを設定する

1 「ホームネットワークアシスタント」CDを2台目以降のパソコンのCD/DVDドライブにセットする

自動的に「本ツールの使用許諾」と表示されます。自動的に表示されない場合は、「マイコンピュータ」のCDアイコンをダブルクリックすることで表示されます。

2 同意する場合は、「同意する」をクリックする

ホームネットワークアシスタントの「メインメニュー」画面が表示されます。

3 「設定スタート！」をクリックする

「ホームネットワークをつくる」画面が表示されます。

4 Windows XPをお使いの場合は、「パソコンをネットワークに追加（2台目以降）」を☑にして、「次へ」をクリックする

以降は、1台目のパソコン（このパソコン）の手順を参考にして、画面の説明をよく読んで設定を行ってください。途中、「パソコンの名前を変更する」画面では、ホームネットワークに接続する他のパソコンと重複しない名前を設定してください。

ルータを使ってホームネットワークを作る

ここでは、「ホームネットワークアシスタント」には対応していないルータやダイヤルアップルータを使ったホームネットワークの作り方について説明します。設定を行う前に、ホームネットワークに接続するすべての機器が接続されていることと、すべての機器の電源が入っていることを確認してください。

ルータを使ってホームネットワークを構築する流れ

1 パソコンの設定をする

- ・ネットワーク設定の準備をする
- ・ネットワークの設定をする

2 ルータを設定する



3 ホームネットワークの設定を確認する



4 ファイルを共有する



5 プリンタを共有する

POINT

- ・ホームネットワークに接続するパソコンは、1台ずつ確実に設定を行うようにしてください。
- ・ルータにLANケーブルで接続するパソコンと無線LANで接続するパソコンがある場合は、先にLANケーブルでルータに接続するパソコンを設定します。無線LANでルータに接続するパソコンは、ルータの設定が終わった後で行います。
- ・ホームネットワークの設定が完了したら、「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定をする」(p.18) をご覧になり、「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定をすることをおすすめします。



パソコンの設定をする

ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンで行います。



ネットワーク設定の準備をする

● Windows XP の場合

- 1 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「通信」 - 「ネットワークセットアップウィザード」 をクリックする
「ネットワークセットアップウィザード」 が起動します。
- 2 「次へ」 をクリックする
- 3 「次へ」 をクリックする
- 4 「ネットワークハードウェアの接続が切断されていることが検出されました。」と表示された場合は、「接続されていないネットワークハードウェアを無視する」を にして、「次へ」 をクリックする
- 5 「ネットワークの別のコンピュータ経由または住宅用ゲートウェイ経由でインターネットに接続している」を にして、「次へ」 をクリックする
- 6 「適切なネットワーク接続を検出する (推奨)」を にして、「次へ」 をクリックする
- 7 コンピュータの説明とコンピュータ名を入力して、「次へ」 をクリックする
 CHECK | コンピュータ名は、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンで違う名前を付ける必要があります。
- 8 ワークグループ名を確認して、「次へ」 をクリックする
 CHECK | ワークグループ名は、ホームネットワークに接続する、すべてのパソコンで同じ名前を付ける必要があります。
- 9 ネットワークの設定を確認して、「次へ」 をクリックする
- 10 「ほかのコンピュータでウィザードを実行する必要はない (ウィザード終了)」を にして、「次へ」 をクリックする

11 「完了」をクリックする

12 「はい」をクリックする

パソコンが自動的に再起動します。再起動後に、ネットワークの設定が有効になります。

● Windows 98/Me の場合

1 デスクトップの「ネットワークコンピュータ」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする

2 「ユーザーの情報」タブをクリックし、コンピュータ名とワークグループ名を確認する



コンピュータ名は、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンで違う名前を付ける必要があります。また、ワークグループ名は、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンで同じ名前を付ける必要があります。

3 「OK」をクリックする

パソコンが自動的に再起動します。再起動後に、ネットワークの設定が有効になります。

● Windows 2000 の場合

1 デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする

2 「ネットワーク ID」タブをクリックして、「プロパティ」をクリックする

3 コンピュータ名とワークグループ名を確認する



コンピュータ名は、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンで違う名前を付ける必要があります。また、ワークグループ名は、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンで同じ名前を付ける必要があります。

4 「OK」をクリックする

パソコンが自動的に再起動します。再起動後に、ネットワークの設定が有効になります。



ネットワークの設定をする



- ・パソコンにTCP/IPがインストールされていない場合は、この後の手順に進む前に、TCP/IPをインストールする必要があります。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。
- ・ルータのDHCPサーバ機能を使用しない場合（固定IPサービスを利用しているなど）や、ルータにDHCPサーバ機能がない場合には、ルータの設定が終わった後で、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンにIPアドレスを手動で設定する必要があります。このとき、「デフォルト ゲートウェイ」欄にはルータのIPアドレスを入力します。お使いのルータの種類によってIPアドレスが異なるので、ルータのマニュアルなどで確認してください。IPアドレスを手動で設定する方法については、この後の「IPアドレスを手動で設定する」（p.26）をご覧ください。

● Windows XP の場合

- 1 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワークとインターネット接続」 - 「ネットワーク接続」 をクリックする
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
- 2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする
「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されます。
- 3 「インターネット プロトコル (TCP/IP)」をクリックして、「プロパティ」をクリックする
「インターネット プロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面が表示されます。
- 4 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」が になっていることを確認して、「OK」をクリックする
- 5 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「OK」をクリックする

● Windows 98/Me/2000 の場合

1

「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックして、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする（Windows 2000の場合は、「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックして、「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックし、「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする）



Windows 2000の場合に、手順1で「ローカルエリア接続」アイコンが表示されないときは、LANアダプタが認識されていません。LANアダプタを正しく接続してください。

2

「ネットワークの設定」タブの画面で「TCP/IP -> XXX (LANアダプタ名)」をクリックして、「プロパティ」をクリックする（Windows 2000の場合は、「全般」タブで「インターネット プロトコル (TCP/IP)」をクリックして、「プロパティ」をクリックする）

3

「IPアドレス」タブで「IPアドレスを自動的に取得」が☑になっていることを確認して、「OK」をクリックする（Windows 2000の場合は、「全般」タブで「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」が☑になっていることを確認して、「OK」をクリックする）

- ・ Windows 98/Me の場合→手順4へ進む
- ・ Windows 2000 の場合→手順6へ進む

4

「ゲートウェイ」タブの画面で「インストールされているゲートウェイ」が空欄であることを確認する

5

「DNS設定」タブの画面で「DNSを使わない」が☑になっていることを確認して、「OK」をクリックする

6

「ネットワークの設定」タブの画面で「優先的にログオンするネットワーク」欄から「Microsoft ネットワーク クライアント」を選んで、「OK」をクリックする（Windows 2000の場合は、「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「OK」をクリックする）

7

Windows を再起動する

再起動後に、設定が有効になります。

ルータを設定する

ルータの設定を行う前に、ルータの設定を行うパソコンを決めておきます。ここでは、このパソコンを使ってルータを設定する方法を説明します。また、プロバイダや回線事業者と契約したときに送られてくる会員証など、インターネット接続の設定を行うために必要な書類は手元に揃えておいてください。

一般的にルータの設定は、「Internet Explorer」などWebブラウザのアドレス欄にルータのIPアドレス（http://192.168.0.1/、http://192.168.1.1/ など）を入力して行います。また、ルータの種類によっては、ユーティリティを使って設定を行うものもあります。詳しくはルータのマニュアルをご覧ください。



IPアドレス

ホームネットワークに接続しているパソコンを識別するための番号のこと。必ず重複しない番号を割り当てる必要があります。



「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定をする

「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」を使うと、外部からこのパソコンへの不正侵入を防ぐことができます。

ルータの設定が終わった後に、「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定をすることをおすすめします。

購入時には、「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」のセキュリティレベルは「オープン」に設定されていて無効になっています。次の手順でセキュリティレベルを変更してください。

1

画面右下の通知領域にあるMを右クリックして、「SecurityCenterを開く」をクリックする

「McAfee SecurityCenter」が表示されます。

2

「Personal Firewall+」をクリックする



3 「標準」をクリックする

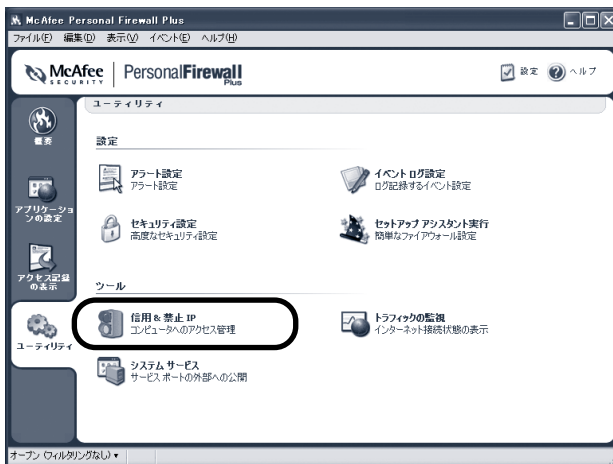


これで「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」でコンピュータが保護されました。

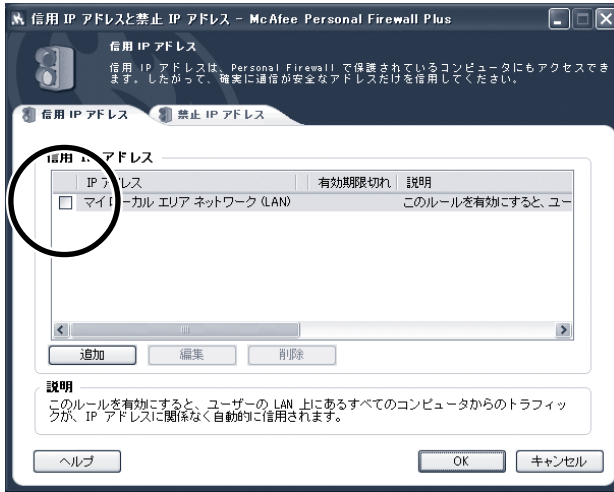
ルータの設定を行った場合など、アクセスを許可するIPアドレスを設定するときは、続けて次の設定を行ってください。

1 画面右下の通知領域にあるMを右クリックして、「Personal Firewall」 - 「ユーティリティ」をクリックする

2 「ユーティリティ」画面で「信用&禁止IP」をクリックする



3 「信用IPアドレスと禁止IPアドレス」画面で「マイローカルエリアネットワーク (LAN)」を☑にする



4 「OK」をクリックする

これで「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の設定は完了です。



「アプリケーションが変更されました。」と「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の警告メッセージが表示された場合は、「アクセス認証」をクリックして設定を続けてください。

ホームネットワークの設定を確認する

ここまでの設定が終わったら、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンからインターネットに接続できるかどうか確認します。

ルータのDHCPサーバ機能を使用しない場合（固定IPサービスを利用しているなど）には、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンでIPアドレスを手動で設定し直した後に、インターネットに接続できるか確認してください。このとき、「デフォルト ゲートウェイ」欄にはルータのIPアドレスを入力します。お使いのルータの種類によってIPアドレスが異なるので、ルータのマニュアルなどで確認してください。IPアドレスを手動で設定する方法については、この後の「IPアドレスを手動で設定する」（p.26）をご覧ください。

ファイルを共有する

ホームネットワークに接続しているいずれかのパソコンに共有フォルダを作り、その中に自分のパソコンで作ったファイルやデジカメで撮影した写真などのファイルを置くことで、ホームネットワークに接続したパソコン同士でファイルを共有できるようになります。


□ □ ファイルを共有できるようになるまでの流れ

1 共有フォルダを作成して、ファイルを置く



2 他のパソコンで、共有フォルダにあるファイルを確認する

□ □ 共有フォルダを作成して、ファイルを置く

ここでは、Windows 98/Me/2000 で共有フォルダを作成する手順を説明します。Windows XPの場合は、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「LAN」-「ネットワークの設定」をご覧ください。共有フォルダを作成してください。

POINT


Windows XPでは、「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックすると表示される画面に「Documents」フォルダがありますが、このフォルダに置いたファイルもホームネットワークに接続しているすべてのパソコンで共有できます。他のパソコンからは、「他のパソコンで、共有フォルダにあるファイルを確認する」（p.23）の手順3までを行い、「SharedDocs」フォルダをダブルクリックすることで、このフォルダに置いたファイルを確認できます。

Windows98/Meの場合、あらかじめ「Microsoft ネットワーク共有サービス」をインストールしておく必要があります。

以下の手順でインストールしてください。

- 1 | 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックして、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
- 2 | 「ネットワークの設定」タブの画面で「追加」ボタンをクリックする
- 3 | 「ネットワークコンポーネントの種類を選択」の画面で「サービス」を選択し、「追加」ボタンをクリックする
- 4 | 「Microsoft ネットワーク共有サービス」を選択し、「OK」ボタンをクリックする
- 5 | 「ネットワークの設定」タブの画面で「OK」ボタンをクリックする
- 6 | 再起動のメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックして再起動する

これで「Microsoft ネットワーク共有サービス」のインストールは完了です。

- 1 | 共有したいフォルダを右クリックして、表示されるメニューから「共有」をクリックする
- 2 | 「共有」タブの画面で、「共有する」(Windows 2000の場合は、「このフォルダを共有する」) を  にする
必要に応じて「共有名」「コメント」などを設定します。Windows 2000の場合は、さらに「アクセス許可」をクリックして、共有フォルダを利用できるユーザーを制限することもできます。

3 | 「OK」をクリックする

フォルダを共有すると、アイコンの表示が次のように変わります。



4 | 共有したいファイルを、このフォルダに置く

☐ 別のパソコンで、共有フォルダにあるファイルを確認する

共有フォルダにファイルを置いたら、ホームネットワークに接続している他のパソコンで、共有フォルダにあるファイルを確認します。

1 | デスクトップの「ネットワークコンピュータ」アイコンまたは「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする（Windows XPの場合は、「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックして、「その他」欄にある「マイネットワーク」をクリックする）

この後の手順は、お使いのOSによって異なります。

- ・Windows 98/Me/2000の場合→手順2へ
- ・Windows XPの場合→手順4へ

2 | 「近くのコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

ホームネットワークに接続しているパソコンが一覧表示されます。

3 | 共有フォルダのあるパソコンのアイコンをダブルクリックする

4 | 共有フォルダのアイコンをダブルクリックする

共有フォルダの設定が正しければ、「共有フォルダを作成して、ファイルを置く」(p.21) の手順4で置いたファイルが表示されます。

プリンタを共有する

ホームネットワークに接続しているパソコンのいずれか1台にプリンタが接続されていれば、そのプリンタを共有することで、ホームネットワークに接続している他のパソコンからでも印刷できるようになります。設定を行う前に、プリンタの電源が入っていることを確認してください。

POINT

- ・プリンタを共有する設定を行う前に、あらかじめパソコンとプリンタの接続、プリンタドライバのインストールを完了させておく必要があります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- ・プリンタを共有できるように設定するときに、正しいプリンタドライバがインストールされていないというメッセージが表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって、プリンタを共有したいパソコンのOSに対応したプリンタドライバをインストールしてください。このとき、OSに対応したプリンタドライバが添付されていない場合は、この後の手順でプリンタを共有しても、印刷できません。インターネットに接続できる場合は、メーカーのホームページにOSに対応したプリンタドライバが用意されていることがあるので、そこからダウンロードしてください。

プリンタを共有できるようになるまでの流れ

1 プリンタを共有できるようにする



2 共有プリンタを他のパソコンで使えるようにする




3 プリンタで印刷できるかどうか確認する

プリンタを共有できるようにする


ホームネットワークに接続している他のパソコンで印刷できるようにするには、プリンタを接続したパソコンでプリンタを共有できるように設定する必要があります。


1

「スタート」-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「プリンタとFAX」をクリックする（Windows Me/2000の場合は、「スタート」-「設定」-「プリンタ」をクリックする。Windows 98の場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」から「プリンタ」フォルダを開く）

- 共有したいプリンタのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから「共有」をクリックする
- 「このプリンタを共有する」または「共有する」を  にして、「OK」をクリックする

共有プリンタを他のパソコンで使えるようにする

ここでは、共有したプリンタを、Windows 98/Me/2000 がインストールされているパソコンで使えるようにする手順を説明します。共有したプリンタを使えるようにしたいパソコンに Windows XP がインストールされている場合は、 「サポートナビゲーター」 - 「パソコン各部の説明」 - 「パソコンの機能」 - 「LAN」 - 「ネットワークの設定」 をご覧になり、設定を行ってください。設定を行う前に、プリンタとプリンタが接続されているパソコンの電源が入っていることを確認してください。設定が終わったら、テスト印刷をして、設定が正しく行われているかどうか確認してください。

- 「スタート」 - 「設定」 - 「プリンタ」 をクリックし、「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする (Windows 2000 の場合は、「スタート」 - 「設定」 - 「プリンタ」 - 「プリンタの追加」アイコンをクリックする)
「プリンタの追加ウィザード」画面が表示されます。
- 「ネットワークプリンタ」を  にして、「次へ」をクリックする
- 「参照」または「次へ」をクリックする
- 共有プリンタが接続されているパソコンのアイコンをダブルクリックする
- 共有プリンタをクリックして、「OK」または「次へ」をクリックする
Windows 98/Me の場合は、「ネットワークパスまたはキューの名前」欄に共有プリンタのネットワークパスが表示されます。
 - ・ Windows 98/Me の場合 → 手順 6 へ
 - ・ Windows 2000 の場合 → 手順 8 へ

6 | 「次へ」をクリックする

7 | 「次へ」をクリックする

8 | 「はい」を にして「完了」をクリックする (Windows 2000の場合は、「はい」を にして「次へ」をクリックし、「完了」をクリックする)

プリンタドライバがコピーされます。コピーが終わると「プリンタ」画面が表示されます。次のようなアイコンが表示されていれば、正しく設定が行われています。



設定が終わったら、プリンタに用紙がセットされていることを確認して、実際に共有プリンタで印刷できるかテストしてみましょう。共有プリンタに接続されていれば、プリンタのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックし、「テストページの印刷」をクリックすることでテスト印刷できます。

POINT

プリントサーバーを使うとさらに便利に

プリンタにプリントサーバーと呼ばれる機器を取り付けると、プリンタの電源を入れておくだけで、共有プリンタを使えるようにしたパソコンでいつでも印刷できるようになります。

IPアドレスを手動で設定する

ホームネットワークに接続している各パソコンには、「IPアドレス」という数値を重複しないように割り当てる必要があります。通常、このIPアドレスは、ルータのDHCPサーバ機能などで自動的に割り当てることができますが、必要に応じて手動で割り当てることができます。

POINT

IPアドレスの決め方

一般的に、ホームネットワークでは、IPアドレスを「192.168.0.1」～「192.168.0.254」の間で設定します。このときルータを使ってホームネットワークを構築している場合は、ルータに「192.168.0.1」を割り当てるようにしてください。

● Windows XP/2000 の場合

1 「マイネットワーク」を右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする（Windows XPの場合は、「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックして、画面左の「その他」欄にある「マイネットワーク」をクリックし、「ネットワークタスク」欄にある「ネットワーク接続を表示する」をクリックする）

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする

3 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックする
「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面が表示されます。

4 「次の IP アドレスを使う」を  にして、次のように設定する

- 「IP アドレス」欄 → 「192 168 0 XXX *1」
 - 「サブネットマスク」欄 → 「255 255 255 0」
 - 「デフォルトゲートウェイ」欄*2 → 「192 168 0 1」
- * 1 : XXX には、ホームネットワークに接続している他のパソコンと重複しない数値を入力します。
- * 2 : ルータまたはインターネット接続の共有機能が動作しているパソコンの IP アドレスを入力します。



サブネットマスク

IP アドレスと組み合わせてホームネットワークを識別するための数値のこと。

5 「次の DNS サーバーのアドレスを使う」の「優先 DNS サーバー」欄にプロバイダや回線事業者から指定された「DNS サーバー」または「プライマリ DNS サーバー」のアドレスを入力する

6 「OK」をクリックする

7 Windows を再起動する

再起動後に、設定が有効になります。

● Windows 98/Me の場合

- 1** | デスクトップにある「マイネットワーク」または「ネットワークコンピュータ」を右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする
- 2** | 「ネットワークの設定」タブの画面で、「TCP/IP -> XXX (LANアダプタの名前)」をダブルクリックする
- 3** | 「IPアドレス」タブをクリックして、「IPアドレスを指定」を にし、IPアドレスとサブネットマスクを入力する
 - 「IPアドレス」欄 → 「192 168 0 XXX *」
 - 「サブネットマスク」欄 → 「255 255 255 0」

* : XXXには、ホームネットワークに接続している他のパソコンと重複しない数値を入力します。
- 4** | 「OK」をクリックする
- 5** | Windows を再起動する
再起動後に、設定が有効になります。

ルータを使わずにホームネットワークを作る

ここでは、このパソコンのインターネット接続の共有機能を使ったホームネットワークの作り方について説明します。設定を行う前に、モデムやTA（ターミナルアダプタ）などホームネットワークに接続するすべての機器が接続されていることとすべての機器の電源が入っていることを確認してください。

ルータを使わずにホームネットワークを構築する流れ

1 このパソコンの設定をする

- ・インターネット接続の設定をする
- ・ネットワークの設定をする

2 ホームネットワークの設定を確認する



3 インターネット接続を共有できるようにする



4 ファイルを共有する



5 プリンタを共有する

POINT

- ・ホームネットワークに接続するパソコンは、1台ずつ確実に設定を行うようにしてください。
- ・ホームネットワークにLANケーブルで接続するパソコンと無線LANで接続するパソコンがある場合は、先にLANケーブルで接続するパソコンを設定して、後から無線LANで接続するパソコンを設定します。
- ・ルータを使わずにホームネットワークを作る場合、このパソコンがルータの役目をします。この場合、他のパソコンでインターネットに接続するときには、このパソコンが起動している必要があります。

このパソコンの設定をする

最初に、このパソコンでインターネット接続やホームネットワークの設定をします。

インターネット接続の設定をする

Windows XPの「新しい接続ウィザード」を使うと、簡単にインターネット接続を設定できます。「新しい接続ウィザード」については、『ユーザーズマニュアル』第5章の「ブロードバンド接続の設定」をご覧ください。

ネットワークの設定をする

- 1 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「通信」 - 「ネットワークセットアップウィザード」をクリックする
「ネットワークセットアップウィザード」が起動します。
- 2 「次へ」をクリックする
- 3 「次へ」をクリックする
- 4 「ネットワークハードウェアの接続が切断されていることが検出されました。」と表示された場合は、「接続されていないネットワークハードウェアを無視する」を にして、「次へ」をクリックする
- 5 「インターネットに直接接続している」を にして、「次へ」をクリックする（インターネットに接続しない場合は、ここで「その他」を にして「次へ」をクリックし、次の画面で「インターネットに接続していないネットワークに属している」を にして「次へ」をクリックする）
- 6 「接続」欄から利用するインターネット接続をクリックして、「次へ」をクリックする（手順5で「インターネットに接続していないネットワークに属している」を選んだ場合は、「適切なネットワーク接続を検出する（推奨）」が になっていることを確認して、「次へ」をクリックする）

7 | コンピュータの説明とコンピュータ名を入力して、「次へ」をクリックする



コンピュータ名は、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンで違う名前を付ける必要があります。

8 | ワークグループ名を確認して、「次へ」をクリックする



ワークグループ名は、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンで同じ名前を付ける必要があります。

9 | ネットワークの設定を確認して、「次へ」をクリックする

10 | 「ほかのコンピュータでウィザードを実行する必要がない（ウィザード終了）」を にして、「次へ」をクリックする

11 | 「完了」をクリックする

12 | 「はい」をクリックする

パソコンが自動的に再起動します。再起動後に、ネットワークの設定が有効になります。

POINT

ホームネットワークにWindows XPがインストールされているパソコンを追加する場合も、「ネットワークセットアップウィザード」を使います。このとき、「接続方法を選択してください。」画面で「ネットワークの別のコンピュータ経由または住宅用ゲートウェイ経由でインターネットに接続している」を にします。また、コンピュータの説明とコンピュータ名は1台目と違う名前を、ワークグループ名は1台目と同じ名前を入力します。

ホームネットワークに接続する2台目以降のパソコンがWindows 98/Me/2000の場合は、このPARTの「●Windows 98/Meの場合」(p.15)、「●Windows 2000の場合」(p.15)をご覧ください。コンピュータ名とワークグループ名を設定してください。

ホームネットワークに接続するすべてのパソコンの設定が終わったら、次の「ホームネットワークの設定を確認する」でホームネットワークの設定を確認してください。

ホームネットワークの設定を確認する

ここまでの設定が終わったら、ホームネットワークに接続するすべてのパソコンのネットワーク設定を確認します。

このパソコンのネットワーク設定を確認する

- 1 「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックして、「その他」欄にある「マイネットワーク」をクリックする
- 2 「ネットワークタスク」欄にある「ネットワーク接続を表示する」をクリックする
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
- 3 「ローカルエリア接続」アイコンをクリックして、「ネットワークタスク」欄にある「この接続の状況を表示する」をクリックする
「ローカルエリア接続の状況」画面が表示されます。
- 4 「サポート」タブをクリックして表示される画面で、次のことを確認する
 - ・「アドレスの種類」欄：手動構成
 - ・「IPアドレス」欄：192.168.0.1
 - ・「サブネットマスク」欄：255.255.255.0インターネットに接続しない場合は、「アドレスの種類」に自動プライベートアドレスが、「IPアドレス」と「サブネットマスク」に数値が表示されていることを確認してください。

2台目以降のパソコンのネットワーク設定を確認する

● Windows XP/2000 の場合

「IPアドレスを手動で設定する」の「● Windows XP/2000の場合」(p.27) をご覧になり、設定を確認してください。

● Windows 98/Me の場合

「IPアドレスを手動で設定する」の「● Windows 98/Meの場合」(p.28) をご覧になり、設定を確認してください。

インターネット接続を共有できるようにする

ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンでインターネットを利用できるようにするには、このパソコンでインターネット接続を共有できるように設定する必要があります。

2 台目以降のパソコンでインターネットに接続できるように設定する

● Windows XP/98/Me の場合

- 1 「マイネットワーク」を右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする
 - ・ Windows XP の場合 → 手順 2 へ
 - ・ Windows 98/Me の場合 → 手順 3 へ
- 2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする
- 3 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックする (Windows 98/Me の場合は、「TCP/IP」をダブルクリックする)
- 4 「全般」タブで「IPアドレスを自動的に取得する」を にして、「OK」をクリックする (Windows 98/Me の場合は、「IPアドレス」タブをクリックして「IPアドレスを自動的に取得」を にして、「OK」をクリックする)
- 5 パソコンを再起動する
これで、インターネットに接続できるようになりました。Internet Explorer を起動して、インターネットに接続できるかどうか確認してください。

● Windows 2000 の場合

- 1 「マイネットワーク」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする
- 2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする

3 | 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をクリックして、「プロパティ」をクリックする

4 | 「IPアドレスを自動的に取得する」を にして、「OK」をクリックする

5 | パソコンを再起動する

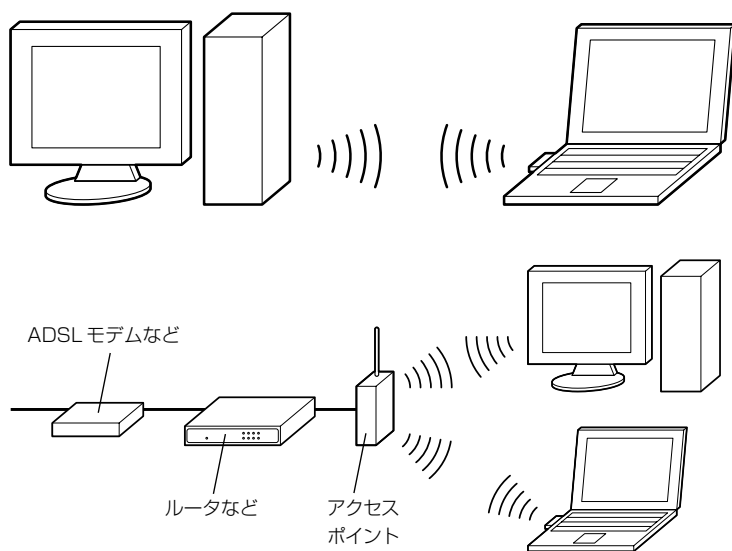
これで、インターネットに接続できるようになりました。Internet Explorerを起動して、インターネットに接続できるかどうか確認してください。

ファイルの共有とプリンタの共有のしかたについては、このPARTの「ファイルを共有する」(p.21)、「プリンタを共有する」(p.24) をご覧になり、設定を行ってください。

ホームネットワークに無線LANを追加する

無線LAN機能がある（または無線LANアダプタを取り付けた）パソコン同士で、無線でデータをやり取りできます。市販の無線LANに対応したターミナルアダプタやルータなどを使うと、モジュラーコンセントから離れた場所でインターネットに接続できます。*

*：これらの機器が無線LANに対応していない場合、アクセスポイントと呼ばれる機器を取り付けることで無線LANに対応できます。ルータにハブ機能がない（複数のLANコネクタがない）場合は、ルータにハブを接続し、ハブにアクセスポイントを接続する必要があります。無線LANに対応したルータを使うと、無線LANに対応しているすべてのパソコンで、無線でデータをやり取りしたり、インターネット接続を共有したりできます。



POINT

アクセスポイントについての注意

一般的に「無線LANアクセスポイント」または「アクセスポイント」と呼ばれるものは、ブリッジタイプのもので、この他に、ルータタイプのもがあります。以下のようなインターネット環境では、ルータタイプのアクセスポイントが必要になります。

- ・ルータタイプでないADSL モデムを使っている場合
- ・ルータを使っていない場合



無線LANでデータをやり取りするには、すべての無線LAN機器が同じ規格に対応している必要があります。ワイヤレスLANモデルに搭載されたトリプルワイヤレスLAN機器は、「IEEE802.11a」、「IEEE802.11g」、「IEEE802.11b」の規格に対応しています。詳しくは、PART1の「ホームネットワークに必要な機器」の「●無線LANアダプタ」(p.3) または、📖「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN」をご覧ください。

無線 LAN 機器を設定する

ホームネットワークで無線 LAN が使えるようになるまでの流れ

パソコンに無線 LAN 機能がない場合は、次の設定を行う前に、無線 LAN アダプタの取り付けとドライバのインストールを完了させておく必要があります。詳しくは、無線 LAN アダプタに添付のマニュアルをご覧ください。アクセスポイントや無線 LAN ルータを使う場合は、ルータやハブへのこれらの機器の取り付けを完了させておきます。

また、設定を行う前に、すべての機器の電源が入っていることとすべての無線 LAN 機器が電波の届く範囲内にあること、周囲に電波を妨害するものがないことを確認してください。

1 無線 LAN 機能がある（または無線 LAN アダプタを取り付けた）パソコンの設定をする



2 無線 LAN ルータ（またはアクセスポイント）の設定をする*



3 無線 LAN ルータ（またはアクセスポイント）のセキュリティ設定をする*



4 無線 LAN 機能がある（または無線 LAN アダプタを取り付けた）パソコンのセキュリティ設定をする

*：無線 LAN ルータ（またはアクセスポイント）を使わずに無線 LAN を構築する場合は、この手順を行う必要はありません。

1 無線 LAN 機能がある（または無線 LAN アダプタを取り付けた）パソコンの設定をする

設定のしかたについては、🔍「サポートナビゲーター」- 「パソコン各部の説明」- 「パソコンの機能」- 「ワイヤレス LAN」- 「ワイヤレス LAN の設定」、または無線 LAN アダプタに添付のマニュアルをご覧ください。

無線 LAN ルータ（またはアクセスポイント）を使わずに無線 LAN を構築する場合は、この手順を行う必要はありません。手順 4 に進んでください。

POINT

無線 LAN ルータ（またはアクセスポイント）を使って無線 LAN を構築する場合は、無線 LAN ルータ（またはアクセスポイント）に設定されている ESSID (SSID) と同じ文字列を設定する必要があります。ESSID の調べ方については、無線 LAN ルータ（またはアクセスポイント）に添付のマニュアルをご覧ください。



ESSID(SSID)

無線通信で、同じ無線 LAN に接続しているかどうかを識別する名前のこと。無線で通信を行うすべての無線 LAN 機器に、同じ ESSID (SSID) を設定する必要があります。

2 | 無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) の設定をする

無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) を使って無線 LAN を構築する場合は、無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) の設定を行う必要があります。設定のしかたについては、無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) に添付のマニュアルをご覧ください。

3 | 無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) のセキュリティ設定をする



無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) を使って無線 LAN を構築している場合は、必ず無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) の側からセキュリティ設定を行うようにしてください。パソコンと無線 LAN ルータ (またはアクセスポイント) でそれぞれ異なる暗号化の設定を行ったりすると、正常に通信できなくなります。

4 | 無線 LAN 機能がある (または無線 LAN アダプタを取り付けた) パソコンのセキュリティ設定をする

無線 LAN 機器のセキュリティ

無線 LAN では、悪意を持った人によって通信内容を盗聴されたり、不正侵入される恐れがあります。このようなことがないように、通信内容を暗号化することで盗聴されても通信内容を解読できないようにしたり (WEP 機能)、指定した MAC アドレスに限定して通信できるようにしたり (MAC アドレスフィルタリング機能)、ESSID (SSID) を他人に見せない (ESS-ID ステルス機能) ようにできる無線 LAN 機器もあります。これらの設定方法については、無線 LAN 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

また、無線 LAN を使用していないときには、無線 LAN 機能を一時的に無効にすることで、侵入される可能性をずっと減らせます。

POINT

「ホームネットワークアシスタント」を使うと、かんたんに WEP 機能を使うことができます。

Home Network

Part

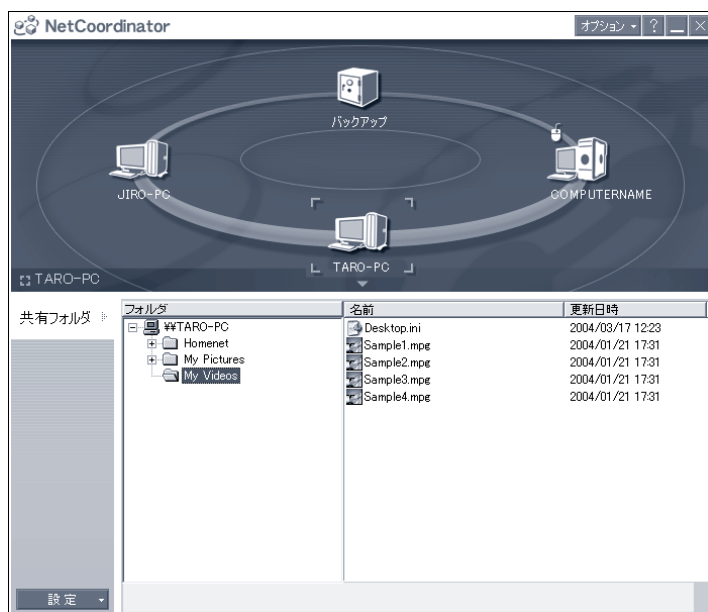
3

**ホームネットワークを使って
更に便利に!**

ホームネットワークの統合管理ソフト 「ネットコーディネーター」

ホームネットワークに接続しているWindows XPまたはWindows Meのパソコンで共有されているデータが、「ネットコーディネーター」を使えば、簡単な操作で管理したり閲覧したりできるようになります。このソフトは、サーバーとクライアントの両方のパソコンにインストールしてください。設定方法や使い方などは、「ネットコーディネーター」のヘルプをご覧ください。

ここでは、「ネットコーディネーター」の機能をご紹介します。



こんなことができます

パソコンやプリンタを一括管理

画面に表示されているアイコンを見れば、他のパソコンやプリンタの状態がひとめで確認できます。さらにリモートパワーコントロール機能を使って、他のパソコンをスタンバイ状態や休止状態にしたり、スタンバイ状態や休止状態から復帰したりできます。



- ・「ネットコーディネーター」で他のパソコンを休止状態やスタンバイ状態から起動するためには、ご使用のパソコンやLANアダプタがWake on LANに対応している必要があります。
- ・Windows Meのパソコンで「ネットコーディネーター」をご使用の場合は、他のパソコンを休止状態やスタンバイ状態にすることはできません。
- ・Windows XP以外のパソコンを休止状態やスタンバイ状態から復帰させることはできません。




☐ ファイルの移動やバックアップも簡単操作

このパソコンだけでなく、他のパソコンの共有フォルダにも「ネットコーディネーター」を使ってアクセスできます。データバックアップ機能もありますから、それぞれのパソコンに格納されているデータを安心してバックアップ可能です。



データのバックアップは、このパソコンに入っている別のソフト「バックアップ-NX」を使うこともできます。

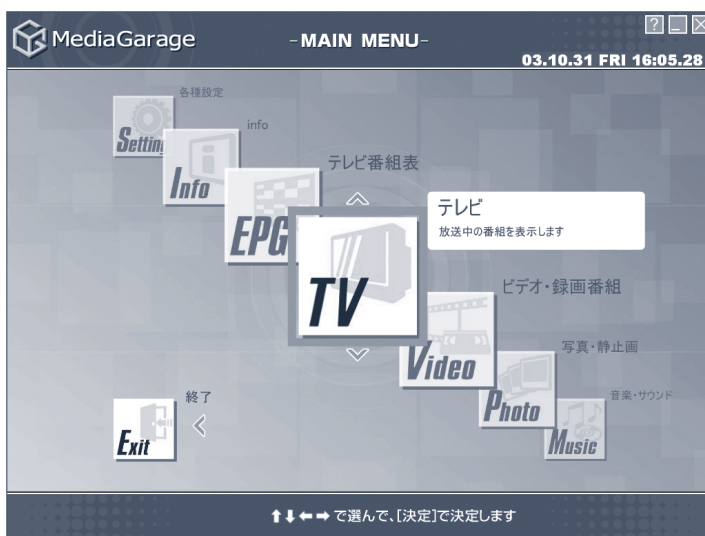


「バックアップ-NX」について→  「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」、 「バックアップ-NX」のヘルプ

統合AVソフト「MediaGarage」

さまざまなデータが楽しめる「MediaGarage」。ホームネットワークを利用すれば、Windows XPのどのパソコンにあるファイルも、このパソコン上にあるファイルのように簡単な操作で閲覧することができます。このソフトは、ホームネットワークで利用するパソコンにインストールしてください。設定方法や使い方などは、「MediaGarage」のヘルプをご覧ください。

ここでは、「MediaGarage」の機能をご紹介します。



こんなことができます

さまざまなデータを自在に楽しむ

デジカメ写真や映像、音楽、テレビ視聴ソフト「SmartVision」で録画した番組など、さまざまなデータが「MediaGarage」で閲覧できます。



録画したテレビ番組を再生する場合は、再生するパソコンにも「SmartVision/PLAYER 2.2」をインストールするか、あらかじめ「SmartVision 2.2」がインストールされている必要があります。



「SmartVision」や「SmartVision/PLAYER」について→『TVモデルガイド』の「PART5 映像を編集する」



どのパソコンのファイルにも自在にアクセス

ホームネットワークに接続している他のパソコン上にあるAVコンテンツも、このパソコン上にあるファイルと同じような感覚で閲覧できます。




- ・ 閲覧には「公開」などの設定が必要です。
- ・ 閲覧できるコンテンツの種類には制限があります。

リモコンやマウスで簡単操作

「MediaGarage」は、このパソコンに添付のリモコンやマウスで簡単に操作できます。



リモコンでの操作について →  「サポートナビゲーター」 - 「パソコン各部の説明」 - 「パソコンの機能」 - 「リモコン」

用語集

■ 1000BASE-T

ネットワーク規格の1つ。通信速度は最大1000Mbpsで、最大伝送距離は100mまでです。ハブ同士の接続は1段階まで可能です。10BASE-T/100BASE-TXと互換性があり、「カテゴリ5e」以上のLANケーブルを使用して接続します。

■ 100BASE-TX

ネットワーク規格の1つ。通信速度は最大100Mbpsで、最大伝送距離は100mまでです。ハブ同士の接続は2段階まで可能です。10BASE-Tと互換性があり、「カテゴリ5」のケーブルであれば、10BASE-Tで使用していたLANケーブルをそのまま利用できます。

■ 10BASE-T

ネットワーク規格の1つ。通信速度は最大10Mbpsで、最大伝送距離は100mまでです。ハブ同士の接続は3段階まで可能です。

■ DHCP サーバ機能

ホームネットワークに接続しているコンピュータに、IPアドレスを自動的に割り当てる機能のこと。

■ DNS

Domain Name Systemの略。ホームページのドメイン名(IPアドレスを代替する文字列のこと。http://121ware.com/など)をIPアドレスに変換するための機能のこと。Internet ExplorerなどのWebブラウザでホームページを見るときは、プロバイダなどが所有しているDNSサーバがブラウザのアドレス欄に入力したドメイン名をIPアドレスに変換してホームページを探します。

■ ESSID(SSID)

無線通信で、同じ無線LANに接続しているかどうかを識別する名前のこと。通信を

行うすべての無線LAN機器(アクセスポイントや無線LANアダプタなど)に同じIDを設定しないと、無線通信できません。

■ ESSIDステルス機能

無線通信で、ESSID(SSID)を見えなくする機能のこと。ESSID(SSID)を見えなくすることで、ESSID(SSID)を知らない第三者がホームネットワークに接続することを防ぎます。「Any接続拒否」と呼ばれることもあります。

■ IEEE802.11a

5GHz帯域の電波を使った無線LANの規格のこと。最大54Mbps(理論値)で無線通信できます。

■ IEEE802.11b

2.4GHz帯域の電波を使った無線LANの規格のこと。最大11Mbps(理論値)で無線通信できます。

■ IEEE 802.11g

IEEE 802.11bと同じ2.4GHz帯の電波を使って、最大54Mbps(理論値)で無線通信ができる無線LAN規格のこと。IEEE 802.11bとは互換性があります。

■ IPアドレス

ホームネットワークに接続しているパソコンを識別するための番号のこと。必ず重複しない番号を割り当てる必要があります。インターネットに接続する機器に割り当てられるものを「グローバルIPアドレス」、ホームネットワークに接続しているパソコンに割り当てるものを「プライベートIPアドレス」といいます。一般に、ホームネットワークでは、プライベートIPアドレスを「192.168.0.1」～「192.168.0.254」の間で設定し、ルータまたはインターネット接続の共有機能が動作しているパソコンに「192.168.0.1」を割り当てます。

■ IP マスカレード機能

ホームネットワークに接続しているパソコンに割り当てられている「プライベートIPアドレス」を、インターネットに接続するときに必要な「グローバルIPアドレス」に変換する機能のこと。NATが1対1で変換するのに対して、1つのグローバルIPアドレスを複数のプライベートIPアドレスに変換できます。これにより、ホームネットワークに接続している複数のパソコンから同時にインターネットに接続できます。インターネット側からホームネットワークに接続したパソコンが見えなくなるため、外部からの攻撃や不正侵入を防ぐ効果もあります。

■ MAC アドレスフィルタリング

「MACアドレス」とは、ネットワーク機器に割り当てられている固有のアドレス番号（16進数、12桁）のこと。ホームネットワークへの接続を許可する無線LANアダプタのMACアドレスを、あらかじめアクセスポイントなどに登録しておくことで、登録されていないパソコンがホームネットワークに接続できなくなります。

■ NAT

Network Address Translationの略。ホームネットワークに接続しているパソコンに割り当てられている「プライベートIPアドレス」を、インターネットに接続するときに必要な「グローバルIPアドレス」に1対1で変換する機能のこと。インターネット側からホームネットワークに接続したパソコンが見えなくなるため、外部からの攻撃や不正侵入を防ぐ効果もあります。

■ WEP

Wired Equivalent Privacyの略。無線LANアダプタやアクセスポイント、無線LANルータに設定したパスワードを利用して、通信内容を暗号化する機能のこと。万一、データを盗聴されたとしても、暗号

化キーを解読されない限り、通信内容は読めません。

■ Wi-Fi

業界団体のWi-Fi Allianceが、無線LANの標準規格である「IEEE802.11a」や「IEEE802.11b」などの互換性を保証するために定めたもの。認定された無線LAN機器には「Wi-Fi®」ロゴが付けられ、これが付いている無線LAN機器同士は問題なく無線通信できます。

■ アクセスポイント

インフラストラクチャモードで通信を行うときに、無線LAN機能がある（無線LANアダプタを取り付けた）パソコンは、アクセスポイントと通信を行います。有線LAN（LANケーブルを利用して通信を行うLAN）と無線LANの中継点にもなります。

■ アドホックモード(Ad hoc mode)

アクセスポイントを介さずに、無線LAN機能がある（無線LANアダプタを取り付けた）パソコン同士が直接無線で通信するモードのこと。

■ インフラストラクチャーモード (Infrastructure mode)

アクセスポイントを介して、無線LAN機能がある（無線LANアダプタを取り付けた）パソコンが無線で通信するモードのこと。

■ コンピュータ名

Windowsのシステムがホームネットワークに接続しているパソコンを識別するための名前のこと。ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンで違う名前を付ける必要があります。

■ サブネットマスク

IP アドレスと組み合わせて、ホームネットワークを識別するための数値のこと。ホームネットワークでは、一般的に「255.255.255.0」を使います。

■ 静的 IP マスカレード機能

ルータの IP マスカレード機能を利用して、特定のソフトに対してインターネット側からの接続を許可する機能のこと。IP マスカレード機能を利用すると動作しなくなる一部のネットワークゲームやビデオチャットなどを利用したいときに必要となります。

■ ネットワークドライブ

ホームネットワークに接続している他のパソコンの共有フォルダや共有ドライブを、自分のパソコンに接続されているドライブのように見せかける機能のこと。

■ ファイアウォール

外部（インターネット側）からの攻撃や不正侵入などからホームネットワークを守るソフトや機器（ルータなど）のこと。このパソコンにある「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」もその1つ。

■ ワークグループ名

ホームネットワークをグループに分けるときに使用する名前のこと。ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンで同じ名前を付ける必要があります。

索引

英数字

1000BASE-T	5, 44
100BASE-TX	5, 44
10BASE-T	5, 44
DHCP サーバ機能	44
DNS	44
ESSID	36, 37, 44
ESS-ID ステルス機能	37, 44
IEEE802.11a	3, 44
IEEE802.11b	3, 44
IEEE802.11g	3, 44
IP アドレス	18, 26, 44
IP マスカレード機能	45
LAN アダプタ	2
LAN ケーブル	5
MAC アドレス	45
MAC アドレスフィルタリング ...	37, 45
MediaGarage	42
NAT	45
SmartVision/PLAYER	42
SSID	36, 37, 44
WEP	37, 45
Wi-Fi	3, 45

あ行

アクセスポイント	3, 35, 45
アドホックモード	3, 45
インフラストラクチャーモード	3, 45
ウイルス	6

か行

グローバルIP アドレス	44, 45
クロスケーブル	5
コンピュータ名	45

さ行

サブネットマスク	27, 46
スイッチングハブ	5
ストレートケーブル	5
静的IP マスカレード機能	46
セキュリティ	37

な行

ネットコーディネーター	40
ネットワークドライブ	46

は行

バックアップ	41
バックアップ-NX	41
ハブ	5
ファイアウォール	46
ファイルの共有	21
不正侵入	6, 18
プライベートIP アドレス	44, 45
プリンタの共有	24
プリントサーバー	26
ホームネットワークアシスタント	9

ま行

マカフィー・ウイルススキャン	6
マカフィー・パーソナルファイア ウォールプラス	6, 18
無線LAN	3, 35
無線LAN アダプタ	3

ら行

ルータ	4, 18
-----------	-------

わ行

ワークグループ名	46
----------------	----

MEMO

MEMO

MEMO



Home Network

初版 2004年6月
NEC
853-810601-289-A
Printed in Japan

このマニュアルは再生紙
(古紙率:表紙50%、本文100%)を使用しています。



* 8 1 0 6 0 1 2 8 9 A *